

平成 25 年度 一般社団法人日本建設機械施工協会研究開発助成 助成対象研究開発決定のお知らせ

平成 26 年 1 月 20 日
一般社団法人日本建設機械施工協会

一般社団法人日本建設機械施工協会（J CMA、会長 辻 靖三）は、平成 25 年度の研究開発助成対象研究開発を平成 25 年 12 月 25 日付けで決定しましたのでお知らせいたします。

この「研究開発助成」は、建設機械及び建設施工に関する技術等の向上と普及を図り、もって国土の利用、開発及び保全並びに経済及び産業の発展に寄与することを目的として優れた研究開発・調査研究に対して助成する制度で、本年度は第 7 回目となります。

本年度は、研究開発助成審査委員会（委員長 岸野佑次 東北大学名誉教授）において過日厳正な審査を行い、今般応募 9 件の中から『環境に優しく豪雨と地震に強い新しい補強土壁工法の研究開発（神戸大学大学院工学研究科：教授 澁谷 啓氏）』の 1 件（研究開発の概要は別紙のとおり）に対し助成することに当協会会長が決定しました。

問い合わせ先：

一般社団法人日本建設機械施工協会 鈴木
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8
TEL:03-3433-1501 FAX:03-3432-0289

平成 25 年度助成対象研究開発の概要

○環境に優しく豪雨と地震に強い新しい補強土壁工法の研究開発

神戸大学大学院工学研究科 教授 澁谷 啓氏

<研究開発の概要>

本研究では、豪雨・地震に強く、低コストで環境面でも安全な“鉄鋼スラグ補強土壁工法”の研究開発を目指すものである。

具体的には、リサイクル材料である鉄鋼スラグの利用促進を兼ねて、L型スラグ擁壁・軽量スラグ盛土・L型ジオシンセティクス排水材を補完的に組み合わせることにより、地震・豪雨に強く、低コストで環境負荷軽減に寄与する新しい補強土壁工を研究開発するものである（図1）。

また、鉄鋼スラグ擁壁・盛土の力学・環境安全性に関する実証的研究を実施し、施工法及び締固め管理法についても研究開発する。

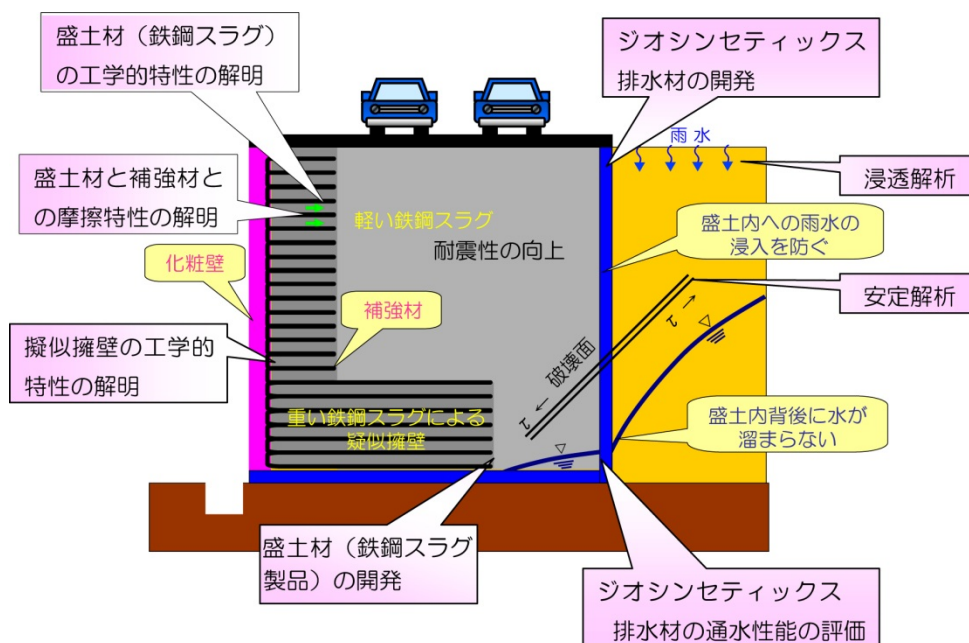


図1 鉄鋼スラグを用いた補強土壁の概要

<審査委員会における評価>

国としても地滑り対策の研究に取り組んでいるところであり、時宜を得た研究であることが評価された。

1. 研究開発助成の趣旨

本事業は、一般社団法人日本建設機械施工協会の定款及び事業計画に基づき建設機械及び建設施工に関する技術等の向上と普及を図り、もって国土の利用、開発及び保全並びに経済及び産業の発展に寄与することを目的として、優れた研究開発・調査研究に対して助成することを目的とします。

2. 助成対象者

- ①大学、高等専門学校及びこれらの附属機関に属する研究者及び研究グループ
- ②法人格を有する民間企業等の研究者及び研究グループ

3. 応募期間

平成25年8月1日 から 平成25年10月31日

4. 研究期間

平成26年2月から平成27年3月末

5. 成果の発表等

平成27年11月頃開催予定の「建設施工と建設機械シンポジウム」にて発表 又は 当協会へ論文として投稿(機関紙「建設機械施工」に掲載)

6. 選考の方法

応募資料に基づき、研究開発助成審査委員会において選考

7. 平成25年度 研究開発助成審査委員会委員

委員長	岸野佑次	東北大学	名誉教授
委員	阿部雅二郎	長岡技術科学大学	工学部 教授
	太田秀樹	中央大学研究開発機構	教授
	立石洋二	一般社団法人日本建設機械施工協会	建設業部会長
	木川田一弥	公益社団法人土木学会	建設用ロボット委員会
	藤野健一	独立行政法人土木研究所技術推進本部	先端技術チーム 主席研究員
	見波 潔	一般社団法人日本建設機械施工協会	業務執行理事
	山元 弘	国土交通省関東地方整備局関東技術事務所	所長